

サバヒーの種苗生産

種苗開発部 主任研究員 今吉 雄二

種苗生産の目的

主に奄美周辺海域でのカツオー本釣り漁業では、撒き餌として使用する小魚(キビナゴ、カタクチイワシ等)の確保が難しくなっています。そこで、当センターでは、それらに代わる餌料として、サバヒーを安定的かつ大量に供給できるよう、技術の開発を行っています。

種苗生産の流れ

①採卵・育卵



受精卵(直径約1.3mm)



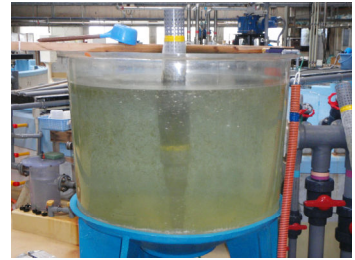
②ふ化・飼育水槽へ



ふ化したばかりの仔魚
(全長約5mm)



③飼育



容量1トンの小型水槽
を使用しています。



⑤出荷・中間育成



漁協の施設で中間育成
試験を行うことも。



④取り上げ



平均全長が17mmを超えた
時点で計数・移槽します。

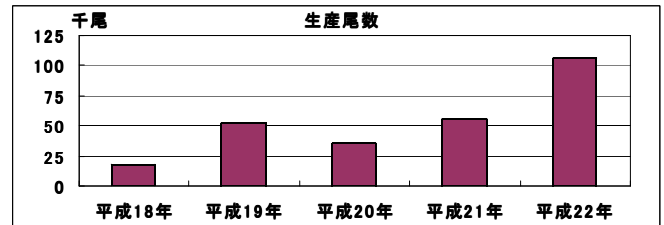


ふ化後12日目の仔魚
(全長約8mm)

これまでの成果

平成18年に初めて採卵、種苗生産に成功しました。その後、平成19年～22年まで4年連続で3万尾以上の生産実績を挙げています。

	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
生産尾数(千尾)	18	52	36	56	106
サイズ(全長)	47mm	17mm	17mm	17mm	17mm



※平成22年は、飼育水中のワムシ(ふ化したばかりの仔魚の餌となる微生物)密度を、これまでの2倍に増やす(20個/cc→40個/cc)ことにより、飼育水1トンあたり41,000尾の生産に成功しました!

今後の計画

平成22年の餌料条件(ワムシ40個/cc)を大型水槽で再現し、大量生産(20万尾以上!)を目指します。